

戦没一万八十五柱の靈にささぐ

久米隊長は三人は、小松を山長は、胸がつまんだ。のほり山長に出た。真棒三郎「オイヤッしかりしやん」

秘密兵器

三入は、小松に向かい、顔面してきた。じゅうぶんひきつり

一発で敵戦車炎上
瞬時、返礼の集中砲火

「私の父、阿曾文吉少将、戦没は、二十年六月十八日、前線、でゆく未明にありました。当時私は六歳、妹は四歳、弟は一



陣地陥落で見かけた沖國住民の墓。天井の土がくすれていたため奥の骨盤がよく見えた。

「小松がなほ上」 三入は、胸を打ちかき、敵を、父の陣地はとらげを

「小松がなほ上」 三入は、胸を打ちかき、敵を、父の陣地はとらげを

三入は、小松に向かい、顔面してきた。じゅうぶんひきつり

三入は、小松に向かい、顔面してきた。じゅうぶんひきつり

